

## 4 古代インド思想

### ① [1] 教 + α

- (1) 初期 [2] 人社会に成立
- (2) [3] (カースト) 制度と一体  
ex. [4] … 司祭階級
- (3) 聖典『[5]』  
… 神々への讃歌 etc.
- (4) [6] 転生の苦しみ  
… 生きている時の業 ([7] 「行為」) に応じて魂が再生し続ける  
cf. 自業自得
- (5) [8] … (4)からの脱却  
∴ 魂が再生せずに、天界 (六道の最上界) にとどまること  
cf. ヨーガによる  
苦行や瞑想

+ α

- 1 [9] 哲学 (B.C. 8 C、成立 ∴ 最古の哲学?)  
『ヴェーダ』の奥義書 (おうぎしょ)  
… [10] 一如で解脱  
A と B  
← [11] (A) と [12] (B) の一体化を自覚  
(宇宙の原理) (個体の本質)
- 2 [13] 教 (4 C、成立)  
… バラモン教 + 土着の神々  
ex. ([14] 神 →) [15] 神 → [16] 神 → … の循環  
創造神 維持神 破壊神

### ② 仏教 (ガウタマ = [17] < 釈迦、仏陀 > B.C. 6・5 C)

- (1) [18] 出遊 (29歳で出家)  
… 北門で修行者に出会う  
∴ 苦行 → 瞑想により解脱して、ブッダ「悟りし者」になる
- (2) 四 [19]  
ダルマ = 「原理」のしるし
- 1 [20] 皆苦 ∴ 人間は [21] (自己や所有物への執着する心の持ち方) を捨てられない存在  
[22] (貪・瞋・痴) など「百八つ」  
cf. 四苦八苦 … [23] (生 = 生まれる、生 = 生きる) ・ [23] ・ [23] ・ [23] と  
[24] 苦 ・ [25] 苦 ・ [26] 苦 ・ [27] 苦  
愛するものと別れる 憎いものと出会う 求めるものが得られない 色 (しき 物質と肉体) ・ 受 (じゅ 感受作用)  
・ 想 (そう 表象作用) ・ 行 (ぎょう 意志や記憶) が高める
- 2 [28] 無常
- 3 [29] 無我  
不変の実体 (本質)  
cf. [30] … 1 ~ 3 (この世の理法) に対する無知 ∴ 苦の根本原因
- 4 [31] 寂靜 ← 1 ~ 4 を正しく知る (悟る) ことで、煩惱が減びて解脱できる